



のにするため、カンファレンスを重ねて活動の内容を決めるようにしています。実際の日常活動の内容を紹介します。Aさんには、好きなものがいいくつかあります。そのうちの1つは新聞や雑誌なのですが、それを持って見たり破いたりすることで笑って過ごしています。Aさんが職員と一緒に取り組むような少し難しいことにチャレンジすることで、手の動きや職員との関わり方に幅がでるのではないかと考えました。そのためAさんの活動時間には、職員が好きなものをスケッチ

ブックの間に本人に見せながら入れて、取るように促すというところを行っています。手指に拘縮があるため、初めはめくって取り出すのが難しく、職員と一緒にやることもありました。だんだんめくり方を覚え、一人でできるようになりました。そこで、もう少し取り出すのが難しいことへ変えていくことで、本人の満足だけではなく、やる気へと繋がっていくようにしています。また、これまで職員に対しては好きなものを求めるように手を伸ばすことが多かったのですが、職員が色々なも

のを留意するようになったことで、日常活動の時間以外にも職員が持っているものに興味を持つことが多くみられるようになりました。職員とのやり取りの幅が広がってきているのではないかと感じています。Bさんは、意図的な手足の動きは見られませんが、顔をしかめるといような不快の様子は見られますが、笑うというような快の様子がみられることは殆どありません。また、身体に力が入りやすく、触れられることでさらに力が入ることも多くみられます。これらのことから関わっていくことの難しさを感じていました。Bさんは目の動きがみられ、以前から職員の間で水や光などキラキラと光るものを見ていたのではないかとされています。しかし、「自発的に見ている」と判断することが難しくなったため、ビデオ撮影し、職員全員で同じ映像を見て評価したところ、「自発的に見ている」という意見の一致を得ることができました。そして、見る様子を引き出せた時には、はじめは見ようとしてなにか力が入るもの、だんだんと力が抜けてじっく

りと見ることができています。そこから目標を「見ることへの意識を引き出す」と設定しました。意識を引き出した時の身体の力の入り方や、どのような物ならより長く見ることができのかを細かく設定し、評価しています。今回は、2名の日常活動を紹介しました。16名に対し、細やかに生活を考えていくのはとても難しいことです。一人ひとりの生活の中に少しでも充実した時間が持てるように考え続けたいと思っています。(すばる 係長)

